



福島郡山LLタウン初弾完成 フクダ・アンド・パートナーズ 施工は西松建設

フクダ・アンド・パートナーズ（F&P）が、福島県郡山市で開発を進めている先進的物流施設集積パーク「福島郡山LLタウン」の第1弾となる福島郡山LLタウン棟が完成し、20日に現地で完成式典を開いた。開発事業者はプロロジスMLホールディングスとF&Pの子会社・福島郡山LLタウンの共同事業体。プロジェクトマネジメントと設計・監理は直営で、西松建設が施工した。

LL（ロジスティクス・ライフライン）タウンは、物流施設が人々の暮らしを守るサステイナブルなライフラインと位置付け、物流企業に加え雇用の創出、広域防災の連携拠点としての役割を担う。開発面積は15万2272平方メートルで、4区画で工事が進む。

今回B敷地に完成したのは、平時はオフィスビル、災害時には避難所となる防災型

リバーシブルビル・福島郡山未来共創センターの機能を併設する福島郡山LL棟で、S造2階建て延べ8619平方メートル。また、ヤマト運輸が郡山ロジセンターとして入居し、災害時には支援物資を受け入れ、避難所への配送機能も担うほか、食堂などは避難者受け入れ場所としても機能する。

太陽光発電パネルと蓄電池、非常用発電機、V2Xシステムによる3次元バックアップ機能を備え、停電時も電気が消えない施設を実現した。250人×6日分の食糧やスマイル・ブラザーズ・ジ



ヤパンが製造販売する備蓄型組立式個室トイレ「ほぼ紙トイレ」の在庫も保管。災害発生時はヤマト運輸と連携し、被災エリアに配送する計画だ。BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）最高ランクの六つ星とZEB（ネットゼロ・エネルギー・ビルディング）認証を取得している。

このほか、2026年10月完成予定のA敷地にはヤマト運輸のBTS（特定企業専用物流施設）型物流施設となる延べ4万7206平方メートルのプラロジスパーク郡山1を建設する。C・D敷地は延べ4万7584平方メートルのプロロジスパーク郡山2、E敷地は延べ1万6824平方メートルの施設を整備し、28年秋の全体完成を目指す。

この日は、完成式典に併せてF&Pと郡山市、ヤマト運輸、プロロジス、NTT東日本との5者で「災害時における避難者支援・指定避難所等の協力および物資等の緊急輸送等に関する協定」を締結した。

た「写真。締結式には福田哲也F&P社長と椎根健雄市長、長尾裕ヤマトホールディングス社長、山田御酒プロロジス会長兼CEO、熊谷敏昌NTT東日本副社長が出席・調印した。

福田社長は「東日本大震災の経験からモノを届けることは、人の命を守ることだと痛感した。物流の最適地である郡山の地から、暮らしを支える物流インフラとして、災害時には国のレジリエンスに貢献したい」と意気込みを語った。山田会長は「われわれの開発コンセプトの一つが地域との共生だ。複数企業向けのプロロジスパーク郡山2の入居者にもこの輪に入ってもらいたい」とした。椎根市長は「防災・減災に取り組むまちづくりを進めており、防災体制のさらなる強化に努めた」と話した。熊谷副社長は「4月に設置した防災研究所の知見を取り入れ、地域防災の最先端の取り組みを展開したい」と語った。